

富山市

イノシシ対策マニュアル

<地域ぐるみでイノシシ対策に取り組みましょう!!>



【電気柵のため畑に入れないイノシシ（山田地域：暗視カメラで撮影）】

令和元年 6月

富山市農林水産部森林政策課
富山市有害鳥獣対策協議会

1. はじめに

富山県内では、明治40年頃まで一部の市町村にイノシシが生息していた記録があるものの、大正から昭和にかけては、県内でのイノシシの生息は確認されていませんでした。

しかし、平成10年代に入ると隣接県からの侵入により、再び生息するようになり、現在では県内の中山間地域全域に生息域を広げています。

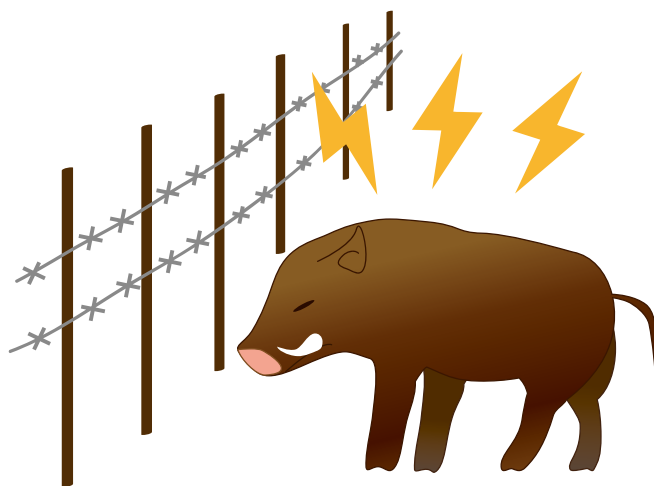
本市においても、平成13年に大山地域、大沢野地域でイノシシによる農作物被害が報告されて以降、市内の中山間地域全体に生息域が広がるとともに、生息数も増加し、平成29年以降は、本市の有害鳥獣による農作物被害金額の半分はイノシシによるものとなっています。

拡大するイノシシ被害への対策として、本市では、電気柵などの侵入防止対策や富山市鳥獣被害対策実施隊や市内の猟友会の協力による捕獲の実施などの対策を実施してきましたが、個体数の増加スピードに対策が追いついていないというのが現状です。

このような状況の中で、少しずつでもイノシシ被害を減らしていくためには、市と地域の皆さんが一体となって、正しい知識を持って被害対策に取り組んでいくことが重要であると考えています。

今回、「富山市イノシシ対策マニュアル」では、市内の被害の現状やイノシシの生態、被害対策の基本事項などをまとめました。

地域ぐるみで対策に取り組む際の参考にしていただき、一丸となって効果的な対策を進めていきましょう！

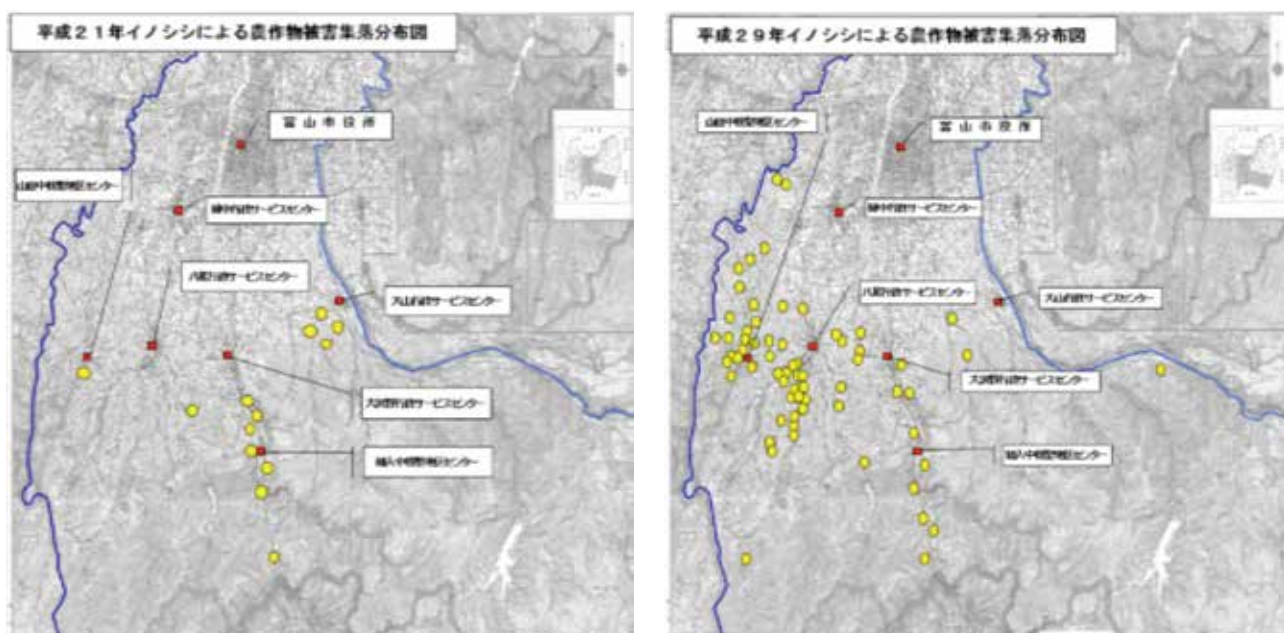


2. 富山市におけるイノシシ被害の現状

01 被害の分布状況

本市でのイノシシによる農作物被害の発生状況については、平成20年代始めまでは、中山間地域の一部集落での発生にとどまっていたましたが、イノシシの生息数の増加に伴い生息域が拡大し、それに伴い被害の発生は市内の中山間地域全体に広がってきています。

【イノシシによる農作物被害集落の分布状況の推移】



※黄色の丸がイノシシによる農作物被害があった集落



イノシシ被害（水稻）



イノシシ被害（サトイモ）

02 富山市のイノシシによる農作物被害の現状

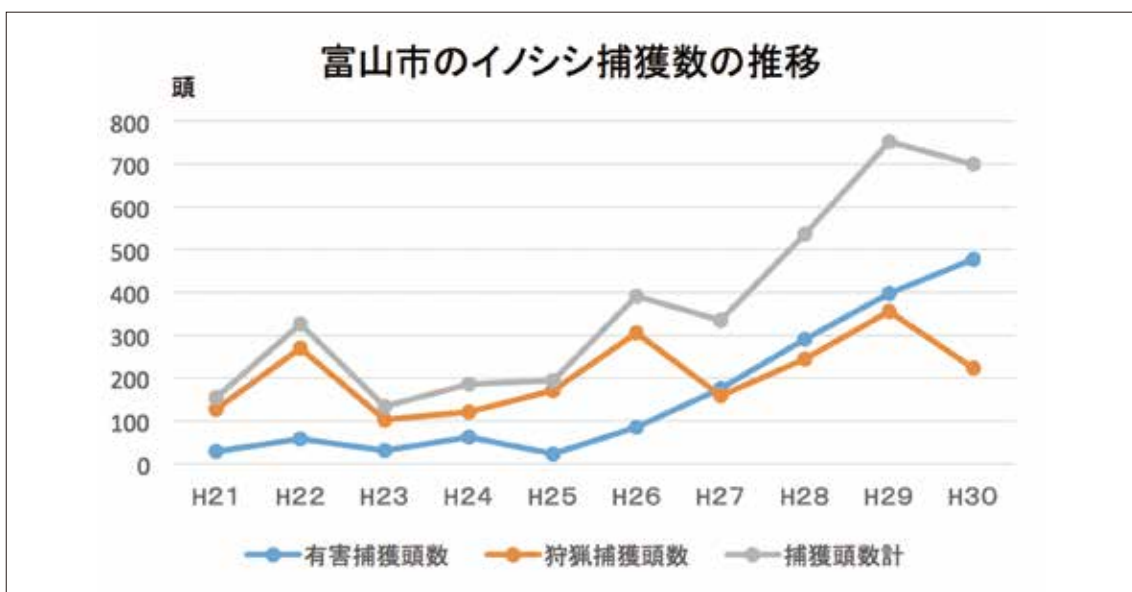
本市のイノシシによる農作物被害の状況については、被害金額・被害面積ともに年々増加し、平成29年には被害金額1,866万円、被害面積17.8haと過去最大の被害となりました。平成30年は、被害額が半減しているものの、イノシシの生息数は増加していることから、今後も被害の拡大が危惧されています。



03 富山市のイノシシ捕獲の状況

本市では、イノシシ被害が拡大してきたことに伴い、平成27年度に富山市鳥獣被害対策実施隊を組織し、イノシシの有害鳥獣捕獲を強化するとともに、狩猟によるイノシシの捕獲に市単独の報奨金を出すなど捕獲の強化を図っています。

市内で捕獲されるイノシシの数は年々増加していて、平成30年度には、有害鳥獣捕獲と狩猟による捕獲合わせて701頭が捕獲されています。しかし、イノシシは繁殖力が強いことから、生息数の減少には至っていないのが現状です。



3. イノシシの生態と特徴

これまで県内にイノシシがほとんど生息していなかったことから、イノシシの生態や特徴は一般の皆さんにあまり知られていません。しかし被害を防止するためには、まず相手のことを詳しく知ることが大切です。

01 イノシシの生態について

- イノシシは、本来は日中に行動する動物（昼行性）なのですが、臆病な性格で、とても警戒心が強く人を避けて行動するため、夜行性的のように思われがちです。しかし、人に慣れて警戒心が低下したイノシシは、堂々と日中に行動するようになります。
- 野生のイノシシの寿命はおよそ10年前後とされています。非常に繁殖力が強く、冬に繁殖期を迎え、春に出産し、1回に平均4～5頭出産します。
また、出産は基本的に年1回ですが、出産や子育てに失敗した場合、秋に再び出産することもあります。
- イノシシの年間増加率は非常に高く、海外の繁殖条件の良い事例では1年間で1.63倍と推定され、この割合では、千頭のイノシシが10年後には13万2千頭になる計算になります。
- 生後3ヶ月頃を過ぎるまでは背中にしま模様が見られますが（ウリ坊といわれます）、成長とともにしま模様は消えて、1年程で成獣になり、繁殖も可能になります。
- イノシシのオスは、成獣になると基本的に単独行動し、メスは幼獣や姉妹、母等と群れで行動します。行動範囲はおよそ1～2km四方といわれ、縄張り性は低いようです。

02 イノシシの食性について

イノシシは、雑食性で地表や地中を掘り起こして、農作物や自然の食べ物を探して食べます。一度味をしめた農作物などはよく記憶し、何度もその農作物を食害します。

●イノシシが好む農作物

イネ、サツマイモ、サトイモ、ジャガイモ
カボチャ、トウモロコシ、根菜類、豆類など

●イノシシが好む自然の食べ物

ドングリ、タケノコ、ヤマイモ、葛の根、
ミミズ、サワガニ、ヘビ、カエル、昆虫など
※エサが少ない冬は木の根も食べます

●食べないとされるもの

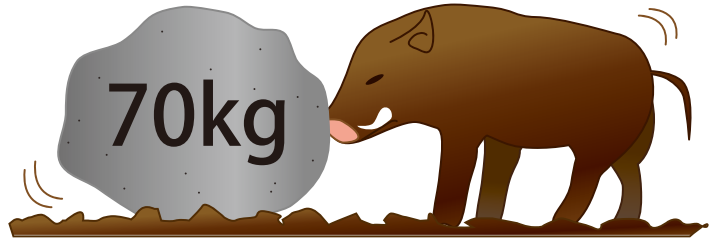
トウガラシ、ゴボウ、エゴマ、シソ、
ニンニクなど



03 イノシシの能力について

イノシシは、外見に似合わず非常に運動能力が高く、また学習能力もありますので、その辺を十分考慮した上で対策を行うことが重要です。

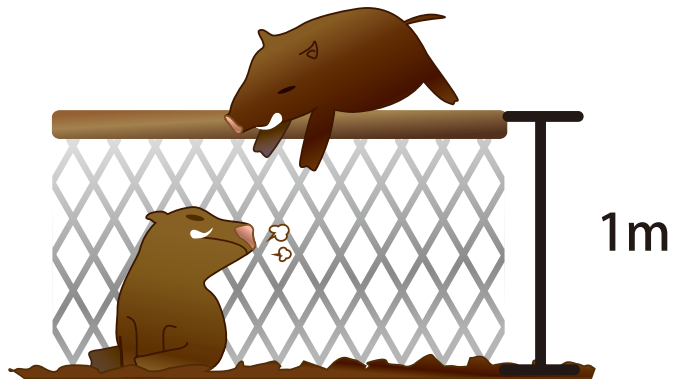
- 鼻は敏感で、犬並みかそれ以上の嗅覚を持つと言われていました。また鼻の力は強く70 kgの石を動かすことができるとされ、地面を深く掘ることもできます。
- 跳躍力に優れ、助走なしで1 m余りの高さを飛び越えることができ、下から20cm以上のすき間があればくぐり抜けようとします。
- 急斜面も簡単に登り降りすることができます。また「猪突猛進」という言葉がありますが、実際のイノシシは、方向転換はもちろん、バックしたりするなど機敏に動くことができます。
- 泳ぎが得意で、流れが緩い川は平気で泳いで渡ります。ダムや海で泳いでいる姿も目撃されています。
- 学習能力が高く、覚えが早く、覚えたことは忘れません。



04 イノシシの体形や身体特徴等について

イノシシは成獣になると体長が100～140 cm程になり、体重は約80～100 kg程になります。中には、体長150 cm以上で、体重が120 kgを超すような大型のオスの個体もいます。イノシシの身体の特徴等は次のとおりです。

- オスには非常に鋭い犬歯（牙）があります。
- イノシシの皮膚は厚く強く、体毛が太くて長いため、電気柵の電気は、毛皮の部分には流れにくくなっています。鼻先と足先には体毛はないので、電気が流れます。
- イノシシの足跡は、蹄（ひづめ）の後ろにある少し開いた副蹄（ふくてい）の跡が特徴となっています。また、道路脇の掘り起こしやぬた打ちした痕跡があれば、イノシシが周辺に生息しているというサインです。



4. イノシシ被害に強い集落を目指して

01 被害対策の基本的な考え方について

イノシシの被害を防ぐための対策を行う上では、次のような基本的ポイントを理解しておく必要があります。

● 相手を知ろう！

イノシシに対して一般的なイメージがありますが、その中には間違った認識の場合もあります。被害対策はまず相手を知ることから始めます。

● イノシシが出没しにくい環境づくりを！

耕作放棄地や草むらがあると、臆病なイノシシでも安心して農地に近づくことができます。逆に見通しのよいところでは、身の危険を感じて近づきにくくなります。イノシシの隠れ場所を無くし、出没しにくい環境をつくるのが大切です。

● 集落を餌場にしない！

畑に放置した野菜くずや二番穂（ひこばえ）、収穫しない果樹などは、イノシシにとってご馳走で、これがイノシシを集落に呼び寄せる原因になっています。

集落内を点検して餌となっているものを取り除き、餌場にさせないようにしましょう。



電気柵設置研修会

● 他人まかせにしない！

「役所で対応してくれれば」「猟友会が捕獲してくれれば」というように、被害の当事者としての意識が薄れてしまっているケースがありますが、やはり自分の農地は自分自身で日常的に守らないと被害を減少させることはできません。

● 集落全体で取り組む！

個人の取組みも大事ですが、バラバラよりも集落で取り組んだ方が効果的です。集落単位での取組みに対しては、国・県・市も支援しています。補助事業を上手に活用することで、個人負担を少なくすることができます。

一人ではできないことでも、みんなで協力すればできることがあります。

02 被害防除対策について

イノシシ被害防除対策としては、電気柵やワイヤーメッシュ柵を使って、農地等への侵入を防止する方法があります。この対策を実施する場合は、地形や積雪などの自然条件、適切な管理が可能な規模や労力を考慮して、現場に合った資材を使って実施することが大切です。また個人で設置するよりも、集落や地域全体で計画的に設置を検討した方が効率的で、被害防止効果も高くなります。



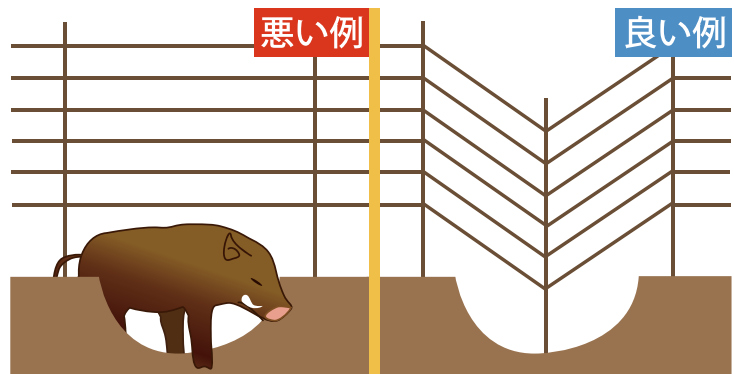
電気柵の設置作業

①電気柵

電気のショックにより農地への侵入を防ぐ柵で、しっかりと設置し、適正に管理すれば、現時点で最も効果的な防除方法

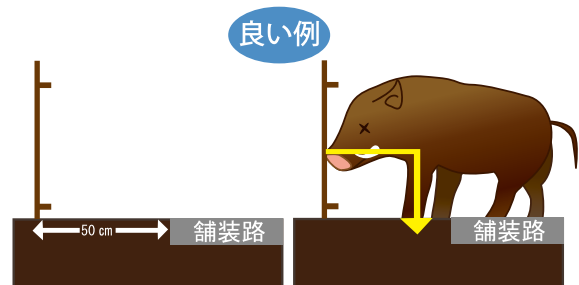
です。比較的安価で、草刈り等の管理や毎年の設置・取り外し作業が必要ですが、軽量で設置や収納は比較的容易です。

- イノシシの背中などの毛皮部分は電気を通しにくいですが、鼻先は通電しやすいので、電気柵の電線を確実に鼻先に触らせるために、電線を張り巡らせる高さは地面から20cm間隔で2段張ることが基本です。なお、この間隔が広いとイノシシは電線の下を潜って農地に侵入してしまいます。



また、起伏のある所は、起伏に合わせて支柱の間隔を狭めて設置するなど地面との間に隙間ができないようにしましょう。

- 電気は、「電線⇒鼻⇒足⇒地面」と、電気の通り道ができることによって初めて通電します。舗装路など電気が流れない場所は通電しにくいので、50 cm以上離して設置するか、離して設置できない場合は、通電性のあるシート等を敷くと良いでしょう。



- 電線に雑草が触れると漏電の原因になります。電気柵は漏電すると効果が低下してしまい、せっかく電気柵を設置しても、イノシシの侵入を許してしまうことになります。

電線の周りの定期的な草刈りやテスターを使った電圧の点検等の管理を定期的に行うことが大切です。



設置された電気柵

②ワイヤーマッシュ柵

ワイヤーマッシュで物理的に農地等への侵入を防ぐ柵で、電気柵に比べてかなり高価で、設置に人手、時間、労力がかかりますが、侵入防止効果は高く、草刈りなどの管理に係る手間が少なくなります。設置にあたっての注意点は次のとおりです。

- 積雪の重みやクマなどによる乗り越えなどによって倒れる場合もありますので、ワイヤーマッシュ柵を設置する場合は、守りたい区域の形状や地形、設置場所の地形や地質、植生などを勘案して設置する必要があります。
- 柵の設置は、斜面より平地のほうが適しています。また、ヤブの茂った場所での設置は管理に労力がかかります。
- 押し倒されないように適当な間隔で丈夫な支柱を立てましょう。
- 設置後は、破損がないか確認するなど定期的に管理をしましょう。



ワイヤーマッシュ柵の設置作業



設置されたワイヤーマッシュ柵

03 捕獲対策（個体数管理）について

イノシシの被害対策として、集落周辺で生活するイノシシの絶対数を減らすことが必要であり、このために捕獲対策を強化しています。

捕獲を行なう場合、「有害鳥獣許可捕獲」と「狩猟による捕獲」という2つの方法があります。

①有害鳥獣許可捕獲

- 有害鳥獣許可捕獲は、イノシシなどの野生鳥獣により農作物が被害を受けたとき、県や市町村の許可を受けて、有害鳥獣捕獲隊（富山市の場合は、市鳥獣被害対策実施隊）が有害個体を捕獲する制度です。狩猟期間（イノシシの場合は、11月1日～3月末まで※通常の動物の場合は11月15日～2月15日）以外は、許可を受けないと捕獲することはできませんので注意してください。
- イノシシの有害鳥獣許可捕獲は、市が任命した市鳥獣被害対策実施隊員が行ないますが、日常的に行う檻の見回りなどは、住民の皆さんが協力するなど地域ぐるみで取り組むことが大切です。

②狩猟による捕獲

- 野生鳥獣を狩猟により捕獲するには、狩猟免許を取得し、狩猟者登録をする必要があります。最近では、イノシシの被害を受けている農家の方が狩猟免許を取得される例も増えています。（市では、鳥獣被害対策のための狩猟免許取得に対して、補助金を交付しています。詳しくは市森林政策課又は農林事務所農地林務課にお問い合わせください）
- 狩猟免許には、網猟免許、わな猟免許、銃猟免許（第1種・第2種）等の種類があります。狩猟免許試験は1年に3回実施されています。なお、免許取得を希望される場合は県自然保護課に申込して下さい。



捕獲檻に入ったイノシシの幼獣



捕獲された大型イノシシ

04 生息環境管理対策について

地域の皆さんの協力で行えるイノシシの対策として、イノシシを集落周辺に近づけない環境をつくる生息環境管理対策があります。イノシシが集落の農地に「行きたい・近づきたい」という要因を1つでも取り除いて、イノシシにとって魅力のない場所にすることが大切です。みんなで取り組めば取り組むほど効果が高く、併せて電気柵等の防護柵の効果も高めることができます。

① 餌になるようなものをなくす！！

- 生ごみや野菜くずを田畑や山際に捨てないようにし、収穫の終わった野菜や果樹等の取り残しを畑に残さないようにしましょう。
- 収穫しない果樹や竹林（タケノコ）は放置しないようにし、不要な樹木は伐採するようにしましょう。また、2番穂（ひこばえ）が食べられないように、稲刈りの終わった田は秋起こしをするようにしましょう。



② 田畑に侵入しづらい環境を作る！！

- 耕作放棄地などの雑草繁茂地や田畑周辺の藪は、イノシシにとって絶好の寝床やヌタ場になり、身を隠して行動しやすいため周辺の田畑への被害を誘発します。
イノシシは開けた場所に出るのをとても警戒するので、田畑周辺の藪や山際の草木の伐採をして見通しを良くし、近づきにくい環境を作りましょう。
- 田畑をエサ場だと認識させないためにも、生育期や収穫期だけでなく年中追払いを行うようにしましょう。



05 地域ぐるみで取り組む

鳥獣対策に「これさえすれば大丈夫」というと特効薬はありません。地域ぐるみで、被害防除対策、捕獲対策（個体数管理）、生息環境管理対策の3つの対策に総合的に取り組むことで効果が高まります。個人でできる対策から段階的に対策の輪を広げ、みんなで協力して地域ぐるみで対策に取り組むようにしましょう。

●地域ぐるみの体制づくり

地域ぐるみの対策を実施するためには、まず集落内の合意形成が必要です。集落内の話し合いを通して、被害の現状を把握し、共通認識のもと、集落に合った対策を計画するとともに、周りの集落との協力によって、地域ぐるみの対策を実施する体制をつくりましょう。

06 補助事業について

集落単位等で、電気柵やワイヤーメッシュ柵の設置を行う場合、次のような補助事業があります。設置を検討される場合は、お気軽にご相談下さい！！

●国事業：鳥獣被害防止総合対策事業（電気柵等の設置は各集落で行う）

☆条件：イノシシによる農作物被害があった集落又は隣接する他集落の圃場の被害状況から被害の発生が想定される集落等において電気柵等を設置する場合で、受益戸数が3戸以上であり、かつ被害発生防止を効果とした費用対効果分析が1を超える場合

☆支援内容：国が電気柵等購入費を全額補助

●県単独事業：富山県鳥獣被害対策強化支援事業（電気柵等の設置は各集落で行う）

☆条件：集落等で電気柵やワイヤーメッシュ柵を予防的に設置する場合で、受益戸数が3戸以上の場合（但し県の予算の範囲内）

☆支援内容：電気柵等購入費の内、県1/2、市1/4を補助、集落負担は1/4

●市単独事業：鳥獣被害防止総合対策事業（市単）（電気柵の設置は各集落で行う）

☆条件：集落等で電気柵を予防的に設置する場合で、受益戸数が3戸以上の場合（但し、国、県事業の対象とならなかったもの）

☆支援内容：電気柵等購入費の内、市が1/2を補助、集落負担は1/2

※水稲被害の場合は、県・市事業の集落負担に対して、県農業共済組合の補助もあります。

お問い合わせ

富山地域の方：富山市役所農林水産部森林政策課

富山市新桜町7-38 ☎443-2019

富山地域以外の方：富山市役所農林水産部農林事務所農地林務課

富山市高内333 ☎468-2171